

プロフィール

農業との出会い 福岡正信 わら 1 本の革命
タンザニア

日本に帰ってからのギャップ、人、物、
富士宮での 10 年間、 有畜複合農業、養鶏、野菜のうまさ、
循環型農業、米中心に、
合気道との出会い、より自然に生きる道、
大分へ、米作地帯、日本人の落ち着く原風景、
有畜複合経営、落ち葉、自然の材料、竹、雑木、

農場紹介

規模 水稲 1 , 5 ヘクタール
畑作 1 , 2 ヘクタール
カボス 0 , 3 ヘクタール
鶏 約 50 羽

水稲 今年から鴨の本格的導入 一町歩

野菜 転作田を利用した四季折々の野菜を露地栽培

カボス園 自然園を目指して無肥料栽培

肥料 自然卵養鶏家の鶏糞を中心に堆肥、ボカシ作り
米糠、
緑肥の利用、

販売 消費者との直接提携

セット野菜、米、 野菜家族、自給家族、主食家族、旬の家族など
提携の魅力

売り先が安定している、
作物のできるペースで販売できる
お互いの顔が見れる、心がこもる、いい野菜ができる、
作る楽しみが沸く、
年間通して野菜を切らさないのが大変

大分有機農研 結喜 とタイアップ

地域の仲間と共同出荷

原尻の滝、道の駅

有機農業とは

言葉の起こりと意味

第二次世界大戦後の農業の近代化

機械化による農耕用家畜の放逐

堆肥、厩肥等、有機ひつ肥料から化学肥料へ

病虫害防除、雑草の除去と言う労働も殺虫剤、殺菌剤、除草剤によって、
苦勞な労働から解放される。

反面、農薬に対する病虫害の抵抗性の強まるのに従って、
散布濃度の増大、 農家の農薬災害、消費者の毒素の体内蓄積、

奇形児の出産頻度の増大、

このような状況を背景にして1971年（昭和46年）10月に、有機農業研究会と名づけた会が

発足し、有機農業という言葉が誕生した。

この会は、志を同じくして、それぞれの立場で、研究や運動に協力しようとする農民、消費者、農学者、医学者お呼び非営利法人が会員である。

その志とは、わが国の農業を、あまりにも農薬や化学肥料に依存した現状から脱却させ、

肥料には主として有機物を使用して、殺菌、虫剤、除草剤などを必要としない農法を探究し

確立しようと言うのである。

このようなヴィジョンを会員たちは有機農業といっている。

一楽照雄 記

有機認証とは

今まで有機と言って販売していた自分の野菜が、米が有機栽培といえなくなった。

有機栽培という言葉が社会で認められた？

食の安全の確保

農家の信頼の回復 やっていることを正しく評価してもらうために

認証検査とは

2年以上化学肥料や農薬を使っていない圃場

外部からの影響を受けないこと

異物の混入がないこと

今後の展開

緒方の有機農業

うまい米、魅力

今まで培ってきたもの さといも、牛、なす、ピーマン

自分たちの足元から

学校、施設、食堂

緒方にある産業としての農業を支援 売り先の提供、宣伝

大分市民への訴え、大野川の上流、地産地消、循環

ワークキャンプ

緒方町への恩返し、小さい町の良さ、

30年後の緒方町

若者のこれる町、

WWOOF(ウーフ)につて

Willing Workers On Organic Farms(有機農場で働きたい人たち)

World-Wide Opportunities on Organic Farms(世界に広がる有機農場での機会)

農場は、食事と就寝場所を、働き手は労働力を

金銭関係なしで交換するシステム

最後に、

農業にとどまらぬ、生きることの創造力、土、畑、森、山、川、 _____ 自然
そして、ウジャマーとは、家族、マコンデ、混沌、人間の塔、